

第1号議案

2020年度 事業報告

I 組織活動状況

1. 通常総会

日時:2020年6月20日(土)13:00~15:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事: 理事長 吉岡春菜
事務局長 佐藤 抄
第1号議案 2019年度事業報告
第2号議案 2019年度決算報告
監査報告
第3号議案 2020年度事業計画(案)審議
第4号議案 2020年度予算(案)の審議
第5号議案 役員改選

上記議案について審議され、異議なく承認された。

2. 理事会

(1)第1回理事会

日時:2020年4月24日(金)15:00~17:30

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・新型コロナウイルス感染拡大による影響と活動方針について
- ・短期ボランティア受入方針について
- ・今後の理事会体制について
- ・広報業務委託契約について
- ・月次会計報告
- ・次回以降の理事会日程

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(2)第2回理事会

日時:2020年5月28日(木)15:00~17:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・通常総会に付議すべき事項の審議
- 第1号議案 2019年度事業報告
- 第2号議案 2019年度決算報告
監査報告
- 第3号議案 2020年度事業計画(案)審議
- 第4号議案 2020年度予算(案)の審議
- 第5号議案 役員改選

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(3)第3回理事会

日時:2020年6月20日(土)13:00~15:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・理事長、副理事長の互選の件
- ・次回以降の理事会日程

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(4)第4回理事会

日時:2020年7月31日(金)13:00~14:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・活動に関する特記事項報告
- ・月次会計報告
- ・次回以降の理事会日程

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(5)第5回理事会

日時:2020年8月27日(木)13:00~14:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・事業責任者会議と理事会の分担について
- ・活動に関する特記事項報告
- ・月次会計報告
- ・次回以降の理事会日程

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(6)第6回理事会

日時:2020年9月30日(水)11:00~12:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・ファンドレイジング状況について
- ・月次会計報告
- ・次回以降の理事会日程

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(7)第7回理事会

日時:2020年10月29日(木)11:00~12:00

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・コロナ禍における海外事業の短期 長期的展望
 - ・上期決算状況
 - ・次回以降の理事会日程
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(8)第 8 回理事会

日時:2020年 11月 25日(水)11:00~12:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・月次会計報告
 - ・新型コロナクラスター支援活動(北海道)について
 - ・佐賀県の従たる事務所設置について
 - ・SDGs カンファレンスについて
 - ・次回以降の理事会日程
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(9)第 9 回理事会

日時:2020年 12月 23日(水)13:00~14:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・新型コロナクラスター支援活動(北海道)について
 - ・ふるさと納税について
 - ・月次会計報告
 - ・次回以降の理事会日程
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(10)第 10 回理事会

日時:2021年 1月 29日(金)14:00~15:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・広報戦略について
 - ・次年度事業計画・予算の進め方
 - ・採用状況について
 - ・活動に関する特記事項報告
 - ・月次会計報告
 - ・次回以降の理事会日程
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(11)第 11 回理事会

日時:2021年 2月 26日(金)15:00~16:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・東京事務局移転の件

- ・SHIFT 社との寄付アプリ開発について
 - ・活動に関する特記事項報告
 - ・月次会計報告
 - ・次回以降の理事会日程
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(12)第 12 回理事会

日時:2021 年 3 月 30 日(火)13:00~14:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

- ・2021 年度計画、予算案
 - ・活動に関する特記事項報告
 - ・月次会計報告
 - ・次回以降の理事会日程
- 上記議案について審議され、異議なく承認された。

3. 会員状況

2021 年 4 月 1 日現在の会員数

		2020 年 4 月 1 日現在	2021 年 4 月 1 日現在
正会員	医療者	444 人	398 人
	一般	215 人	201 人
	学生	38 人	27 人
	法人	49 社	51 社
正会員合計		746 人・社	677 人・社
賛助会員	個人・法人	511・社	401・社

4. 事務局

(1)2021 年 4 月 1 日現在の事務局体制

- ◇東京事務局(本部) 事務局長以下のスタッフ19名
(事務職員 15 名+パートタイム・経理顧問)
- 事務局長 :佐藤 抄
- 事務職員 高橋 茉莉子(副事務局長/広報 FR・iER 事業部長)
- 吉岡 春菜(Smile Smile PROJECT)
- 伊藤 和子(Smile Smile PROJECT)
- 小林 友恵(Smile Smile PROJECT)
- 黒柳 諒(経営戦略室長/管理部長)
- 武内 三恵(グローバル人材育成事業部長)
- 横山 菜々子(広報/支援者サービス/ボランティアコーディネーター)
- 宮田 理香(広報・ファンドレイジング/グローバル人材育成)
- 伊藤 千晶(広報・ファンドレイジング/海外医療活動)
- 岸 美貴子(広報・ファンドレイジング/WEB 担当)

渡辺 彬衣(広報・ファンドレイジング)
近藤 ゆふき(広報・ファンドレイジング)
佐々木 蓮(国際緊急支援事業コーディネーター)
岩田 剛(経理)

◇ミャンマー事務所 早坂 恭一(駐在責任者)
河野 朋子(専門医療活動事業担当者)
那須田 玲菜(DreamTrain 事業担当者) 他スタッフ47名

◇カンボジア事務所 佐藤抄(海外事業統括部部長兼駐在責任者)
神白 麻衣子(医療活動責任者) 他スタッフ 90名

◇ラオス事務所 杉山 智哉(駐在責任者) 他スタッフ 4名

(2)総務・庶務事項

東京事務局

・在宅勤務の拡大

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、職員の週 2-3 回の在宅勤務を可能に変更。2019年 7 月に導入したグループウェア製品「Office365」のサービスの一部である Office Teams を団体内コミュニケーションとして本格的に導入し、メール等の既存のコミュニケーションに加えてオンラインでのコミュニケーションを簡便化

・佐賀事務所の設置

災害時の医療支援体制を強化するため、2020 年 11 月 25 日に佐賀県と進出協定を締結。協定締結にともない、佐賀県をハブとした災害支援体制の強化、新型コロナウイルス感染症対策および医療従事者のグローバル人材育成のため、佐賀県伊万里市に新事務所を設置

II 事業活動状況 / 海外

ミャンマー

1. 医療活動

1) ワッチェ慈善病院を拠点とした医療活動

- ・ワッチェ慈善病院と提携先のティーサウン病院にて、外来 1,725 件および手術 97 件を実施した。
- ・ヤンゴンとワッチェ村にて僧院往診を実施し、149 件の診察を実施した。
- ・ヤンゴンの 2 つの僧院へ、医薬品および衛生用品の寄付を定期的実施

2) 専門家による手術ミッション(手術活動)

- ・新型コロナウイルス感染症による渡航制限のため、日本人専門医療チームの派遣はなし。
- ・九州大学小児外科チームとヤンゴン子ども病院とのオンラインカンファレンス実施(6 月)
- ・口唇裂および口蓋裂の手術指導用ビデオ教材の作成および指導用教材の整備
- ・口唇口蓋裂総合治療事業において、ミャンマー人口腔外科医を対象に、4 回に渡って日本人専門家によるオンラインレクチャーの実施(7 月・9 月・12 月・1 月)。2 月実施予定だった第 5 回目は、クーデター発生によりキャンセルとなった。

3) 小児心臓病サポート活動

- ・新型コロナウイルス感染症による渡航制限により、日本人専門医療チームの派遣はなし。
- ・上記に伴い、2022 年 3 月までとなっていた明美ちゃん基金によるミャンマー小児心臓病支援事業の 1 年延長が決定(2023 年 3 月まで)

4) 透析サポート活動

- ・透析施設建設に向けた調査・検討を継続した。

2. ミャンマー医療人育成活動

- ・新倉会の協力のもと、奨学生 9 名(医学生 4 名・看護学生 5 名)の支援を行った。

3. 社会福祉関係

1) 養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)

- ・シャン州チャイントンより 13 名、ネピドー連邦領より 2 名の児童受け入れを行った。
現在の在籍者は合計 113 名。(2021 年 5 月現在)
- ・23 名の児童が施設を卒業。うち 9 名は、ヤンゴンにあるローカル企業、または日系企業に就職することができた。
- ・支援企業・団体の協力を仰ぎ、オンライン学習・イベントの充実を図った。提供されたプログラムは、主に受験対策を行う学習塾・サッカー教室・ダンス教室・ラグビー教室・語学教室・里親様交流会・音楽イベント・児童養護施設との交流会など多岐に渡る。
- ・初級者から上級者までのレベルに対応した日本語学習支援を継続すると共に、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった日本語検定試験に代わる施設内オリジナル試験の実施を行った。受験者は 13 名おり、合格者は N5-5 名、N4-3 名であった。
- ・学校は、新型コロナウイルスの影響により 1 年間休校であったが、専任の講師による英語クラスを継続することができた。また、定期的な小テストや年度末の試験を行った。

2) ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

- ・新型コロナウイルスの感染予防策として、チーミンダイ盲学校が閉鎖されたため、医療マッサージ習得のための1年コースおよび、日本から専門家を招聘するセミナーは実施できず。
- ・過去に医療マッサージのトレーニングを受講した卒業生ら10名に対し、Advanced Courseの一環である座学の部分(解剖学、ミャンマー伝統医療、医療英語基礎など)を、オンラインにて講義。

3) サイクロン孤児支援活動 (*2008年にミャンマー南西部を襲ったサイクロン「ナルギス」)

- ・24名の子どもの教育・医療面でのサポートを実施した。

カンボジア

1. 医療活動

1) ジャパンハートこども医療センター

2016年度に開業した病院を、2018年度に拡張し、小児診療部門を強化した。同年8月に小児がん治療を開始以降、カンボジア国内全土からがん患者が集まり、治療を受けている。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、毎年日本から短期で訪れ、医療活動を行っていたボランティアが渡航困難となった。従来提供していた治療を継続するため、早急に現地の医療者の育成が求められた。その結果、2020年度の1年間で、当院に勤務するカンボジア人の医療者が治療できる疾患の幅や治療技術に大きな成長がみられた。

2020年度のジャパンハートこども医療センター診療実績は表1のとおりである。コロナ禍にもかかわらず、外来の患者数に大きな減少が見られなかった理由は、2020年5月～2021年2月にかけて、比較的国内の感染はコントロールされており、患者も国内の移動が制限されることがほとんどなかったためである。

表1. 2020年度 診療実績

	2020年度				2019年度		
	成人	小児	合計	前年度比	成人	小児	合計
外来診察件数	14,932	2,609	17,541	108%	13,682	2,572	16,245
手術件数	772	221	993	71%	1,117	277	1,394
妊婦検診件数	3,499			77%	4,518		4,518

小児がん治療においては、今年度の新規入院患者数が85名と、前年の2倍以上の患者数に上った。この数は日本のこども病院に一年に入院する小児固形がん患者数を凌ぐ多さであった。前年度までと比較し、急激にがんの患者数が増加した理由は下記の3つが考えられる。

1. 渡航制限により、患者がカンボジア国外で治療を受けることが難しくなった

カンボジアでは難しいとされていた小児がん治療は、これまで多くの国民が隣国のタイやベトナムの病院で治療を受けていた。しかし新型コロナウイルスの世界的流行にともなう感染拡大で渡航が難しくなり、国内での治療を求め多くの患者が当院を受診した。

2. カンボジア国内で唯一小児固形腫瘍の治療を完結できる病院となった

カンボジア国内には当院が治療対象としているがんを治療できる医療機関がもう一施設あったが、2020年度に治療の受け入れを停止した。結果、国内で小児固形腫瘍を治療できるのが当院のみとなり、一層患者が集中した。

3. カンボジアのインフルエンサーによる発信

カンボジアで人気のSNSで多くのフォロワーを抱えるインフルエンサーが当院の医療活動を全面的に応援し、当院を紹介する投稿を定期的に行ってくださった。当院の小児がん患者家族の数名はこのインフルエンサーの呼びかけにより来院することができた。

2020年度の小児固形腫瘍(腎芽腫、肝芽腫、神経芽腫等)の新規入院患者数は85名と前年の2倍以上の患者数に上った。2019年度は、連携している日本の5つの医療機関(大阪大学、鹿児島大学、九州大学、慶應義塾大学、岡山医療センター)から小児外科専門チームを招聘し実施していたが、渡航が困難となった今年度は最高顧問吉岡が計4回カンボジアに渡航し、計50例以上もの小児がん手術を実施した。

また、2021年2月には当院での手術や術後の集中治療が困難と判断された2名の小児がん患者を日本に渡航させ、岡山の医療センターにて手術を行った。

ジャパンハートこども医療センターに勤務する職員数は表2の通りである。

表2. 職員数(2021年4月現在)

	医師	看護師	助産師	コメディカル	非医療系職員	計
日本人	5	10	3	1	4	23
カンボジア人	10	26	6	2	35	79

前年度より、7名増員し、総勢100名を超えた。

2) 農村部への巡回診療活動

カンボジア国内における新型コロナウイルスの感染状況が比較的落ち着いていた2020年8月～2021年2月、コンポンチナン州の医療アクセスの悪い保健センターで月1回のモバイル外来診療を計6回実施し、のべ625名の患者の診療を行った。同時に、現地のヘルスセンターの医療スタッフの治療技術向上や薬局との連携強化にも貢献した。

また、2020年10月、カンボジアに上陸した台風によって深刻な被害を受けたポーサット州にスタッフ8名を派遣し、緊急医療支援を実施した。計475名の患者の治療に携わった。

妊婦を対象とした母親学級においては、ジャパンハートこども医療センターと同じ地区内にある各ヘルスセンターに毎月出張し、栄養、母乳育児等についての勉強会を実施した。

3) 栄養管理事業

2019年10月より運営を開始した給食センターでは入院している全35名(2021年3月末現在)の小児がん患者を対象に年中無休で衛生的な食事を提供している。また、栄養士の指導の下、各小児がん患者の栄養状態や喫食率をアセスメントし、病状に合わせた食事を提供している。病院に勤める職員へも安全で栄養バランスが考慮された食事を提供し、万全なコンディションで医療に携われるようサポートしている。現在日本人栄養士1名、カンボジア人スタッフ6名で運営している。

2. 医療学生支援活動

2020年度は、カンボジアプレイベン州内の5つの高校から奨学生を募集し、5名(医学部生2名、看護学部生3名)の候補を選抜したものの、新型コロナウイルスの感染拡大により、大学入試の実施が延期されていることに伴い、里親とのマッチングも延期となっている。

在籍奨学生は計19名(医学部生12名、看護学部生7名)となり、19名の日本人里親に支援を受けながら通学している。また、2020年度に医学部生1名と看護学部生4名が大学を卒業し、それぞれが医師や看護師としてジャパンハートこども医療センターにて勤務を開始した。この5名の卒業生を含む本奨学金事業の卒業生は、累計医師4名、看護師11名となった。全員が現在もジャパンハートこども医療センターで活躍している。

ラオス

1. 医療活動

・ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療プロジェクトについて、コロナ禍での医師の渡航が叶わずに手術件数は0件に終わった。内科診療活動については現地病院医師による活動が計10回行われ、393名の診療を行った(再診含む)

- ・個人診療では、2019年3月時点で計7名の診療支援を行っていたが、随時サポートを終了し、現在でも支援をしているのは2名のみである。また、その内の1名については化学療法が終了する2021年4月をもって緩和サポートに入ることを決定した。

2. その他・広報活動

ラオス国内での認知度向上と寄付獲得を目指して広報活動に力を入れた。Facebook と YouTube のラオス国内アカウントを解説し、定期的な更新を行っている。
その結果、Facebook を通じた寄付を初めて獲得することが出来た。

国際緊急救援(international Emergency Relief)

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策として①クラスター施設等への医療チーム派遣、②物的支援、③福祉施設を対象とした感染防止指導を積極的に実施したほか、令和二年7月豪雨災害を受けて熊本県での支援活動を約2か月間にわたり実施した。

1. 組織内部強化

- ・10月より事業責任者(高橋)を変更のうえ、常勤職員を1名(佐々木)採用。

2. 自然災害時医療チーム派遣

・令和二年7月豪雨災害を受け、7月7日より先遣隊を派遣し、翌8日より熊本県八代市避難所(避難者数約350名)において避難者を対象とする健康管理支援等に従事。また、8月より人吉市避難所(避難者数約800名)において同様の支援を開始のうえ、いずれも8月末に撤収した。

- ・撤収までの約2か月間の派遣者数は、看護師28名、調整員2名の計30名。

3. 新型コロナウイルス感染症緊急救援

1) 人的支援

2020年4月以降、2021年3月末までに、全国12都道府県37医療機関/施設に看護師を中心とする医療チームの派遣を実施した。派遣先では、コロナ病床やクラスターとなった機関の欠員補填に加え、感染制御のためのPPE着用やゾーニングに関わる指導等、多岐にわたる活動を継続している。

2) 物的支援

2020年4月に実施した、クラウドファンディングで調達した1.5億円分200万枚のマスクを700以上の医療機関に緊急配布した「マスクを医療従事者に」プロジェクトを初めとして、医療物資の不足に苦しむ前線の医療・福祉機関に対して支援を行った。

また、2021年2月にアクセンチュア株式会社と共同開発した寄付物資マッチングプラットフォーム「Heart Stock」をリリースし、個別の物資支援ニーズに対してより迅速で柔軟な対応が可能な体制を構築した。

3) 感染対策指導

ライオン基金との協働で主に高齢者福祉施設を対象とした感染対策指導セミナーを実施した。2020年5月以降12月までに、36都道府県における約600施設から1600名以上が参加した。

3. 人材育成:外部ボランティア登録制度の確立と運営

登録制度参加者数の増加

2017年6月より開始した災害ボランティア研修制度は4年目となった。今年度は12月26日(土)-27日(日)の2日間にわたり、CSO進出協定を締結した佐賀県において、第6回目研修を実施した。医師、看護師、コメディカル、非医療者合わせて24名の新規登録者に加え、2年毎の更新登録者21名、15名の国際看護師研修生が参加。これにより現在135名の登録者を有する。

4. 国内外ネットワーク作り・強化

1) 熊本県との災害時包括支援協定を締結

2021年3月8日、令和二年7月豪雨災害および同県内クラスター医療機関/施設計4カ所への支援を受けて、熊本県と大規模自然災害・感染症拡大時における支援協定を締結。将来的な支援ニーズが発生した際、より迅速な対応を可能とするもの。

2) 学会発表

2021年3月6日、国際保健医療学会の西日本地方会において、ポスター演題の発表を実施した。2020年度に積極実施した新型コロナウイルス感染症対策を初めとするジャパンハートの活動につき、ポスター形式での発表となつ

II. 事業活動状況 / 国内

SmileSmilePROJECT(SSP)

2020年は、コロナ禍において4～6月は依頼が全くなかったものの、緊急事態宣言解除から問い合わせ、依頼ともに増加。結果的には前年を上回る数の個別企画実施となった。複数の家族が集まる招待企画は実施が難しく、3件の開催にとどまったが、食イベントや一休協賛の宿泊企画など新規企画の実施ができた。

1. 個別企画（20件 実施）

1) 6歳の女兒(びまん性正中グリオーマ)

症状の進行により言語的コミュニケーションが難しくなり意識低下しているお子さん。ミッキーに反応を示したので、東京ディズニーランドにもう一度連れて行きたいと母からの依頼。看護師2名付き添いの下、7月に実施した。ターミナル期にあり、時間があまりないとのことで、緊急事態宣言が解除されるのを待っての依頼、COVID19の影響によりチケット確保に難儀したが母の積極性と主治医の協力にて2週間で旅行を実現できた。

2) 9歳の女兒(びまん性橋膠腫)

家族旅行をしたいという母から3月に依頼をいただいたものの、COVID19の影響により計画延期。緊急事態宣言解除後に準備をすすめ、ユニバーサルスタジオジャパンに医師1名とサポーター2名、ラブレグラーファ―1名が付き添い、7月に実施した。ターミナル期にあり、家族写真が少ないとラブレグラーファ―の写真撮影を大変喜ばれていた。お子さんが亡くなった後も、特別な思い出ができた、笑顔のお子さんがたくさん残っていて嬉しいとの言葉をいただいた。

3) 6歳の男児(ユーイング肉腫)

小児がん拠点病院MSWより紹介。ディズニーリゾートに連れて行きたいという父からの依頼。看護師2名サポーター1名が付き添い、7月に実施した。発症から短期間で、積極的治療がないと告知されており、ひとつでもお子さんの希望を叶えたいとMSWはじめ、主治医、外来看護師、病棟看護師、またオリエンタルランドの配慮により実現。家族分チケット確保されてからの、日程指定での依頼にてスタッフのチケット確保に苦慮したが、奇跡的に確保できた。疼痛があり、体調変化が心配されていたが、服薬でコントロールしながら、急変なく楽しむことができた。

4) 4歳の男児(脳幹部神経膠腫)

大好きな新幹線を見るために電車博物館にもう一度連れて行きたいと父からの依頼。ターミナル期にあり、時間的猶予がないとのことで、主治医でなくかかりつけの訪問診療医の協力にて実施。看護師2名付き添いの下7月に実施した。意識レベルが低下しており、反応がほとんどみられなかったお子さんが大好きなジオラマを見て笑っていたとご両親は流涙されていた。看護師が幼児期の同胞と一緒に過ごす間、両親と3人での時間をゆっくり持てたことにも感謝の言葉をいただいた。

5)11歳の女兒(脳幹グリオーマ)

当初の問い合わせはアイボをプレゼントして欲しいとの母からの依頼であったが、丁寧にヒアリングしていくと東京ディズニーランドに行きたいとの希望であった。看護師2名が付き添いし7月に実施した。酸素需要あり、全介助を要するお子さんであったが、当日は友人家族と合流し大好きな友達と一緒に楽しい時間を過ごされた。

6)13歳の女兒(髄芽腫)

小児がん拠点病院の看護師より紹介。再発診断受け、行けるうちに家族旅行に連れて行ってあげたいとのことで母からの依頼。東京ディズニーシーに行きたいとの希望で看護師1名と病棟看護師(SSPサポーター)1名、ラブグラファー1名が付き添いし8月に実施した。母は体力低下と真夏の旅行で体調に心配を持っていたが、病棟看護師との連携と付き添いにより、安心な旅行が実現でき、医療者が付き添ったことへの感謝の言葉をいただいた。

7)1歳の男児(横紋筋肉腫)

大和ネクスト銀行様作成のSSP紹介動画を見て母から依頼。余命宣告を受け、家族旅行をしたいとの希望でアンパンマンこどもミュージアムと水族館に看護師1名、SSPサポーター2名、ラブグラファー1名で付き添い8月に実施。体調不良もみられたが、早めの対応ができご家族に感謝の言葉をいただいている。

8)6歳の男児(ユーイング肉腫) 3のお子さんと同一

子どもの病状が思わしくなく、家族でバーベキューをしたい、きょうだいと2段ベッドで寝てみたいという願いを叶えたいのことで父より2回目の依頼。病院の協力を得て、医師1名が付き添い8月に実施。東京ディズニーリゾート旅行はコロナ禍であることやきょうだいへの配慮から両親と3人での旅行であったが、今回は家族全員で一緒に時間を過ごし、翌朝旅行先で息を引き取られた。

9)11歳の男の子(骨肉腫)

思い出の北海道にもう一度家族で行きたいと母から依頼。看護師2名が付き添い8月に実施。余命宣告を受け、依頼当初は母のメンタルに不安もあったが、時間をかけて話を聞くことで徐々に受け入れられ旅行が実現。COVID-19の影響により道外からの受診者を拒否している病院が多く、緊急受診先の選定に時間を要したが、主治医にも協力を得て確保できた。旅行中は体力の消耗が大きかったものの、症状の出現なく希望されていたイカ釣りなど楽しまれた。

10)4歳の女兒(血管肉腫)

SNSにて活動を知った母より、プリンセスが好きなお子さんをディズニーランドに連れて行きたいと依頼。看護師1名とSSPサポーター1名、ラブグラファー1名で付き添い9月に実施。COVID19の影響により、パーク内入場制限されているため入園チケット確保が難しい状況にあったが、母と連携しチケット購入できた。幼児期の同胞がおり、付き添いスタッフで役割分担しながら3日間で体調変化なく効率よく楽しむことができた。

11)13歳の男児(リンパ腫)

小児がん拠点病院の主治医より紹介。ターミナル期であり、残された時間でひとつでも多く楽しいことをさせてあげたいと父からの依頼。家族で1度も行ったことがない東京ディズニーリゾートへ家族旅行がしたいとの希望で医師1名、看護師1名ラブグラファー1名が付き添い、10月に実施した。再発を繰り返していたこと、年齢的にも自身の余命を告知されており、旅行中やりたいことをめいっぱい楽しもう、前向きに生きようとする姿をみたご家族から、感謝の言葉をいただいた。

12)11歳の男児(骨肉腫) 9のお子さんと同一

ひとつでも多くの思い出を残したいと母より2度目の依頼。お子さんが好きなミカン狩りをして温泉にも入りたいと伊豆旅行を計画、看護師1名、ラブグラファー1名が付き添い11月に実施した。現地ではレンタカーにて、伊豆半島を移動したが、体調変化なく3日間楽しまれた。旅行後、友人に楽しそうに旅行の様子を話されていたと母より感謝の言葉をいただいた。

13) 8歳の女兒(びまん性正中グリオーマ)

主治医より紹介、東京ディズニーランドに祖父母と一緒にいきたいとの母より依頼。再発診断うけ、状態が少しでも良い時に思い出をたくさん作りたいとの希望で看護師1名、SSPサポーター2名が付き添い、11月に実施した。同月実施のキッズニアイベントにもご応募いただいており、合わせて参加いただいた。途中、疲労も見られたが休息を入れながら楽しみにしていた花火までパークで過ごすことができた。

14) 1歳男児(横紋筋肉腫)7のお子さんと同一

ターミナル期にあるお子さんの症状進行がみられ、誕生日にもう一度水族館に連れて行ってあげたいとの母から2度目の依頼。都内水族館の外出を計画するも、症状の悪化により主治医、両親との相談の上、外出はキャンセル。誕生日祝いを兼ねて、代替えとして病室での水族館を提案。病棟スタッフ、星つむぎの村様にご協力いただき、看護師1名が訪問レイルカの映像を上映した。

15) 3歳女児(急性骨髄性白血病)

東京ディズニーランドとアンパンマンミュージアムに行きたいと母からの依頼。距離的に2泊3日での日程では難しく、またCOVID-19の感染拡大が再燃していたことの影響も考え、ひとまず近場のアンパンマンミュージアムに行き、ホテルで家族でゆっくり過ごす旅行となった。医師1名が付き添い12月に実施。アンパンマンこどもミュージアムに対応いただき、感染リスクを避け大好きなドキンちゃんとお寿司屋さんごっこなど楽しまれた

16) 3歳の男児(網膜芽細胞腫)

大学病院の主治医より紹介。クリスマスに東京ディズニーランドに連れて行きたいと母より依頼。看護師1名、SSPサポーター、ラブレグラー各1名が付き添い12月に実施した。幼少期に発症、再発のため入退院を繰り返しており、体調が良いうちに楽しいことをたくさん経験させてあげたいとの主治医と家族の思いがあり、外泊の調整をいただき、終日楽しく過ごすことができた。

17) 15歳の女児(肝臓がん)

小児がん拠点病院の主治医から紹介。当初はジェルネイルをしたいとの依頼であったが、病院スタッフとの連携でいつも家族と行っていたショッピングモールでランチをして、ゲームセンターや買い物をしたいという数時間のお出かけが実現。医師1名、看護師2名、ラブレグラー1名が付き添い1月に実施した。ターミナル期にあり、移動に大きなリスクを抱える中、ストレッチャーでの外出になったが、注射薬で疼痛コントロールしながらも急変することなく、家族の時間を楽しまれた。

一休.com 協賛宿泊企画

一休ポイントを利用してコロナ禍でも安心して家族の時間を持てるステイケーション企画を実施。

18) 7歳男児(神経芽腫)6月に神戸、ラ・スイート・ハーバーランド神戸に1組をご招待

19) 4歳男児(悪性リンパ腫)7月にホテル雅叙園東京に1組をご招待

20) 2歳女児(神経芽腫)3月に由布院玉の湯に1組をご招待

2. 招待企画(3件実施)

1) 九州企画ハウステンボスご招待企画(6月)

新日本製薬株式会社のご支援により実施。2020年3月に企画していた企画であったが、COVID19の影響を鑑み9月に延期しての開催となった。同社員の方も当日ボランティアとして参加いただき、九州地区の小児がん向き合う子どもとその家族6組をご招待した。

2) ヴィーガンスイーツ体験ご招待企画(10月)

協和発酵キリングループ労働組合連合会のご支援により実施。初の食イベントであったが、治療の影響により、口腔粘膜や味覚の障害、食事制限による偏食など小児がんのお子さんの食の問題に悩みを持つご家族3組を招待した。お洒落なレストランでのイベントは参加した母親自身の気分転換にもなったと

好評だった

3) キッザニア東京ご招待企画(11月)

クオンタムジャンプ株式会社のご支援により実施。夜の街がコンセプトのキッザニア東京で職業体験ができる人気イベント。7組の子どもとその家族を招待した。昨年のイベントに参加してくれたお子さんの参加もあり、闘病を乗り越え成長発達した姿を実感する嬉しい時間となった。

3. 広報活動

1) ブース出展

第7回ジャパンキャンサーフォーラム(10月、認定NPO法人キャンサーネットジャパン主催)、第11回H₂OサンタNPOフェスティバル(8月、阪急うめだ百貨店主催)、小児がん交流フェスタ2020(2月、国立成育医療研究センター)にてブース出展し、活動紹介をおこなった。COVID19の影響によりWEB開催や無人でのブース出展であり、一方向コミュニケーションのため活動紹介に留まった印象。

2) 小児がん看護学会学術集会演題発表

第18回小児がん看護学会学術集会(11月)で事例研究を発表した。WEB開催であったが、旅行が難しいと思われた子どもの事例の母親の気持ちに焦点を当てた内容で口頭発表ができた。

3) 活動報告会

2020年度の活動報告会とボランティア説明会をWEBにて3回実施した。そのうち1回はSSPサポーター向けに活動報告を主に行い、スタッフのみならずサポーター同士の交流の場にもなった。初参加者には活動を知っていただくこと共に、実際にボランティア参加していただいたサポーターやラググラファーにも体験をお話いただくことで、具体的なボランティア活動がイメージできたとの感想をいただいた。

4. ボランティア登録制度

2019年度より、活動を支えるボランティアを登録制とし、登録時の活動説明会参加を必須とした。

WEBにて毎月2~3回ボランティア説明会を実施した。活動を支える一般、学生SSPサポーターとして登録者数は73名(2021年3月)COVID-19の影響で積極的な活動が難しいと考え、参加を控えていたSSPサポーターが大多数であったが、次年度の登録継続は98.6%であった。

Ⅲ. グローバル人材育成事業

国際看護師研修・助産師研修

1. 事業実績

・参加状況

項目	2020	2019
国際看護師研修	18名 (54-57期)	11名 (54/55期)
国際助産師研修	3名 (2/3期)	1名 (1期)
アドバンスドナース (前年度からの継続者含)	2名	3名

・応募状況

項目	2020		2019		延べ人数 (2008年～)
	応募	採用	応募	採用	
国際看護師研修	26名	14名	16名	11名	278名
国際助産師研修	8名	6名	1名	1名	

2. 新規取り組み

1) 目標設定シート導入、定期的なオンライン面談の実施

団体の Vision/Mission/Value の設定に伴い、研修においても各自の目標設定シートを導入し、研修の目標設定、および定期的な評価システムを行った。また新型コロナウイルスにより海外研修が半年間中断したため、その間、オンラインを通じたコミュニケーションを定期的にとり、現地の情報提供などを行い、モチベーション維持に努めた。

2) 国内での国際緊急救援活動への人的貢献

新型コロナウイルスにより海外研修が一時中断したが、その間に 8 名の看護師が国内でのクラスター支援活動、及び九州豪雨災害の支援活動に参加し、即戦力として活躍した。

地域医療支援(僻地・離島医療支援)

2018 年度に立ち上げた RIKAJob 事業は、国内離島・僻地で課題となっている看護師不足に対して、人材支援として看護師の紹介事業を実施。2020 年度に奄美群島の与論徳洲会病院・屋久島徳洲会病院の 2 病院が参入となり、現在 15 病院へ看護師派遣を実施。

1. 事業実績

・派遣状況

	2020年度	2019年度
問い合わせ数 (看護師・助産師)	101名 (うちオンライン 相談会 30 名)	69名
問い合わせ数 (学生)	9名	18名
派遣実績	41名	34名

※2020 年度までの総派遣人数 延べ 369名

(延べ人数には国際看護師研修生、アドバンスドナースの僻地離島活動を含む)

2. 新規取り組み

1) オンライン個別相談会の実施

- ・2020 年 5 月より ZOOM を使用した個別での相談会を実施。
- ・現在離島で働いている派遣者にも相談会に参加いただき、体験者の声を発信する取り組みを行った。

2) 僻地離島オンラインイベントの実施

- ・僻地・離島の魅力を発信するためオンラインにてイベントを実施し、31 名が参加した。
- ・現地からの生中継や体験談、特産品の紹介などを行い、イベント実施後、派遣申込や問い合わせ増加に繋がった。

IV. 広報・ファンドレイジング事業

国際医療短期ボランティア

2020年4月より、国際医療短期ボランティア、国際医療ボランティアツアーとともに、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、ミャンマーおよびカンボジアの渡航制限により、本事業の実施を停止した。再開については、各国の渡航制限の状況および外務省の安全ガイドラインに従い検討を行う。

広報活動

1. 支援拡大と団体認知の向上

1) テレビ番組への出演(2020年度)

- 4月カンブリア宮殿テレビ東京(全国)
- 5月「NHK BS1 キャッチ！世界のトップニュース」特集枠に神白医師が出演(全国)
- 5月「Live News it！」フジテレビ(全国)
- 6月「石橋、薪を焚べる」フジテレビ(全国)
- 9月「Live News it！」沖縄テレビ放送(沖縄)ほか

2) ニュース番組への出演(新型コロナウイルス感染症対策関連)(全国放送のみ)

- 9月「クローズアップ現代」NHK
- 11月「Mr.サンデー」フジテレビ
- 11月「News Zero」日本テレビ
- 11月「Oha! 4 News Live」日本テレビ
- 11月「News Every」日本テレビ
- 11月「報道ステーション」テレビ朝日
- 11月「サタデーステーション」テレビ朝日
- 12月「WBS」テレビ東京
- 12月「Nスタ」TBS ほか

3) そのほかメディアへの主な掲載

【2020年度】

- 5月「毎日新聞」
- 8月

「週刊新潮」吉岡秀人インタビュー掲載

- 10月「朝日新聞」吉岡春菜対談記事掲載
- 1月「朝日新聞」宮田看護師インタビュー記事掲載
- 1月「読売新聞」高橋 iER 事業責任者インタビュー記事掲載
- 1月「週刊エコノミスト」吉岡秀人インタビュー掲載
- 2月「宮古新報」宮田看護師インタビュー記事掲載
- 3月「日本版 News Week」宮田看護師・小林看護師インタビュー記事掲載
- 3月「北海道新聞」宮田看護師インタビュー記事掲載

4) WEB サイトおよび WEB 広告

・WEB サイト:

寄付ランディング・ページをリニューアルした。

・WEB 広告:

Facebook など SNS 上での広告掲出を行った。

5) 報告会・説明会などの実施

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、イベントの実施をオンラインに切り替え、ボランティアツアーや短期ボランティアへの誘導の代わりに、新型コロナウイルスに対する活動の説明会などを実施し

た。また、継続的に医師・看護師・コメディカルの相談会を実施している。

6)医療・国際協力関係教育機関・学会・病院での啓蒙活動

ジャパンハートの海外活動地で実績のある医師および看護師、一般職員による学校や学会での講義、講演を実施した。

7)AC 支援キャンペーン採択

AC 支援キャンペーンに採択され、2019 年 7 月より CM 放送、新聞広告、電車の窓上広告、駅貼りポスター、シネアド(映画館での CM 上映)での露出を行っている。AC 広告がきっかけでの寄付や問合せが増加したほか、学生がツアーや短期ボランティアへ参加することを不安に思っていたご家族が、AC の広告で見たことがある団体ということで安心感を覚え、ツアーや短期ボランティアへの参加を許可されたという事例も報告された。

8)その他

吉岡秀人最高顧問等による全国での講演会活動を引き続き実施。

ファンドレイジング

1. マンスリーサポーター(月額寄付者)獲得強化

財務状況の安定化を図るため、月額寄付者の増加を目指し、以下の施策を行った。

- 1) 寄付金額の整理:任意金額の選択から、3000 円、10000円、10 万円の3つに限定。
- 2) ジャパンハート部:月額 10000円以上の寄付者に対し、特別コンテンツ等を発出するコミュニティを構築。サポーター限定の吉岡講演会、対談イベント等を実施した。
- 3) アドバイザリーボードの構築:ジャパンハート部イベント等への協力を念頭に、著名人 10 名からなるアドバイザリーボードを構築した。

2. 法人へのアプローチ

CSR の展開を検討している法人に対し、積極的にプログラムのご案内を行った。

実際のご寄付につながった事案に加え、今後検討していただいている先には次年度も継続してアプローチしたい。

一例)

1) ダイワボウ株式会社様からのご支援

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、ジャパンハートに医療支援費として 1 億円をご寄付頂いた。

2) 森永乳業株式会社様からのご支援

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、首都圏支社主導のもと、小売り店と連携して商品売り上げの一部を寄付する「つながるエール」プロジェクトを実施。集まった 12,127,083 円に CSR 部署からの 1000 万円を追加の上、ご寄付頂いた。

3) パナソニック株式会社様からのご支援

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、パナソニック従業員および企業からの合計 1000 万円をご寄付頂いた。なお、同社よりはミャンマーおよびカンボジアヘソーラーランタンの寄付も頂いている。

3. ふるさと納税の開始

佐賀県にジャパンハートとして事務所を設置し、12 月よりふるさと納税の取り組みを開始した。寄付金額の 90%が NPO の支援に充てられる取り組みとなっており、約 1 億 2000 万円の応募を頂いた。

4. クラウドファンディング

1)4 月に新型コロナウイルス感染症緊急支援として「#マスクを医療従事者に」プロジェクトを実施し、約

- 1 億 5 千万円の寄付を獲得。200 万枚のマスクを購入し、700 以上の医療機関に配布した。
- 2)10 月にカンボジアでのコロナ二次被害を防ぐプロジェクトを実施し、約 1800 万円を獲得。カンボジアにおける現地医療人材の育成費や、医療機器購入を行った。

5. その他

- ・制作物の作成・配布(年次報告書、春・夏・秋・冬ダイレクトメール、遺贈リーフレット)
- ・プレスリリース配信(週1~2本)
- ・メールマガジン配信(月2回)
- ・公式 SNS の運営(Twitter, Facebook, Instagram)

経営戦略室

- 戦略
 - 1.団体の OKR の策定
各事業ごとに OKR(Objectives and Key Results(目標と主要な結果))を新たに設定。各事業が年度を通して目標を追う風土作りを開始
 - 2.事業責任者レベルの会議体の新規設置
(1)の達成のため新たに月次の事業責任者会議を設定。各事業責任者が予算実績を月次で追うこと及び(1)の進捗容を事業責任者レベルで共有
- 財務
 - 1.月次決算早期化及び見える化の推進
月次決算の早期化が次月の月末で行われていたが、業務効率の改善によって 2 週間の短縮を達成。また各事業ごとの予実を細かく見える化する表を新たに作成
 - 2.財務基盤の安定化
また新型コロナウイルス感染症拡大支援やカンボジア事業におけるクラウドファンディングの影響もあり、収益が前年度比 2 倍以上を達成。安定的な収益基盤の一つであるマンスリーサポーターが前年度比約+70%を達成し、一定程度の現預金を確保
- 組織
 - 1.組織内コミュニケーションの促進
「団体のビジョン・ミッション・バリューを踏まえた行動指針」、「事業ごとの OKR を踏まえた実績評価」の両軸からなる評価シートを用いた 1on1 MTG を導入。また東京事務局においては半期に 1 度の振り返り会を実施し事業間をまたいだ組織内コミュニケーションを促進
 - 2.採用
複数の採用媒体を活用し、20 年度全体で 12 名を採用(うち有給スタッフ 6 名、インターン・ボランティア 6 名)

支援者サービス

支援者サービス部門強化

マンスリー寄付者へのリターンとして、専用メールマガジンの配信やコミュニティでのイベントを実施し、支援者のロイヤルティ向上に取り組んでいる。

新型コロナウイルスへの支援開始時には、取り組みをより多くの支援者に知っていただけるよう、広報と連携して、メールや SNS などでの認知拡大に取り組んだ。

また、2 回のクラウドファンディングに際して、通常をはるかに上回る支援者への領収書発行などを正確かつ迅速に対応できるよう、業務改善に取り組んでいる。

第2号議案

2020年度 決算報告
2020年度 活動計算書税込表示
(単位：円)

2020年4月1日から2021年3月31日まで

科目	前年度決算額	今年度決算額	決算に関する特記事項	当初予算額
経常収益				
受取会費	23,138,000	20,544,003		10,150,000
受取寄付金	286,378,809	798,131,383	"マスクを医療従事者にPJ"のクラウドファンディングによる寄付金1億39百万円、ダイボウ情報システム(株)より1億円等大口の寄付があった。	501,574,774
受取助成金等事業収益	5,000,000	52,045,760	日本各地におけるコロナ対応医療活動に対する各自治体からの助成金37百万円、九州豪雨被害支援助成金7百万円	6,300,000
事業収益	55,621,260	23,681,507	コロナ禍の影響でボランティアツアーが2020年3月以降中止したため、ツアー参加者が激減した。	60,343,000
その他収益	2,639,601	6,749,045	為替差益542万円、受取利息132万円	5,600,000
当期経常収益合計 A	372,777,670	901,151,698		583,967,774
経常費用				
【事業費】	408,221,522	541,934,332		528,582,838
人件費	151,921,193	142,966,760	人材派遣費(広報・FR・支援者)の減少385万円、海外福利厚生費(主にカンボジアの給与税)の減少199万円、自宅勤務の増加による通勤費の減少53万円等	154,763,353
顧問・アドバイザー料	1,241,749	600,000	IER顧問料60万円	1,014,200
業務委託費	3,036,548	65,395,573	外部広報コンサル会社への委託料3,298万円に加え、医療活動支援日当2,001万円、福祉施設/災害地訪問日当506万円が前年及び予算より費用が増加した主な原因	4,206,572
通信運搬費	3,777,652	4,956,577	前年及び予算を上回った主因はマスク運搬費136万円	3,235,620
医療器具・備品費	1,589,411	318,428	今期は少額の器具備品の購入のみ	967,900
医療支援費	40,618,082	22,106,365	前年度は医療器具寄附受贈分(約1,900万円)を含む。	54,130,008
学業支援費	11,592,003	8,176,694	Dream Train372万円、夢の懸け橋348万円	11,229,725
子ども支援費	15,720,103	14,744,991	Dream Train 1,286万円 smile smile 161万円	13,077,200
医療者育成費	305,242	1,943,988		5,178,061
旅費交通費	39,918,698	30,828,285	コロナ禍で移動が制限された	33,604,056
水道光熱費	6,575,306	5,992,588		6,165,024
広告宣伝費	33,326,822	35,208,758	日本の心2020年度キャンペーン製作費 1,945万円,Google広告料1,252万円	20,219,225
研修費	886,870	459,500	チーム医療推進ワークショップ36万円	328,800
会議費	2,972,884	314,427	コロナ禍でほとんどオンライン会議に移行	1,235,270
接待交際費	652,555	113,342		541,600
消耗品費	19,262,455	146,117,000	マスク配布プロジェクト費用1億4千万円	152,388,869
食材費	7,784,673	6,756,980		6,286,700
新聞図書費	58,760	30,113		56,705
印刷製本費	1,508,349	1,233,632	2020DM印刷費35万円、JHリーフレット印刷費18万円、その他は多数の少額の印刷費	1,341,230
セミナー・イベント開催費	2,379,480	1,429,280	チーム医療推進ワークショップ前期163万円、今期93万円	1,300,000
海外スタディツアー開催費	1,705,516	64,800	今年度はツアー開催ほとんどなし	3,430,000
工事・修繕費	3,602,183	1,185,586	今年度は少額の修理のみ	1,562,285
賃借料	605,816	3,145	前年は主に車両レンタル費	156,700
地代・家賃	11,564,009	10,486,259	バンコク宿舎/カンボジア第3宿舎前年度途中で解約	10,662,400
車両費	3,233,220	1,923,825		3,053,220
保険料	2,117,674	1,383,069	海外旅行傷害保険料減少	1,769,550
諸謝金	1,582,582	663,165	麻酔関係謝礼金44万円、看護研修講師料6万円	370,000
諸会費	92,683	73,461		87,220
リース料	0	0		0

支払手数料	3,178,443	1,387,995	前年度ウェブサイト運営費(84万円)は支払手数料に計上されたが、今期から業務委託費計上。前年度発生したボランティア受付フォーム開発費(33万円)及びSF個別領収書開発費(33万円)は今期発生していない。	794,850
雑費	62,215	1,070,144	P C R 検査費用106万円	35,450
寄付金支出	155,254	0		54,500
租税公課	727,368	376,038	カンボジアReantal Tax 前年度66万円、今年度34万円	520,000
期首書籍	1,158,000	1,316,545		
当期書籍仕入高	526,380	198,140		
期末書籍	▲ 1,316,545	▲ 1,246,221		
書籍販売原価	367,835	268,464		816,545
減価償却費	34,097,889	33,355,100		34,000,000

【管理費】	31,352,218	40,147,835		36,244,152
人件費	13,201,730	17,892,023	経営戦略室創設による人件費増加	16,969,971
業務委託費	2,840,130	5,706,644		3,714,710
通信運搬費	1,093,810	1,021,709		993,972
水道光熱費	234,498	209,766		230,620
旅費交通費	403,784	22,258	コロナ禍で移動が制限された	300,000
研修費	65,000	0		0
会議費	253,181	18,167	コロナ禍でほとんど会議開催なし	230,000
接待交際費	29,417	1,944		30,000
消耗品費	540,083	2,451,610	東京事務局用パソコン22台207万円	411,987
新聞図書費	0	0		0
印刷製本費	1,196,081	913,038	年次報告書印刷費52万円、複合機パフォーマンスチャージ36万円	436,364
工事・修繕費	12,150	0		15,000
賃借料	1,050	0		720,000
地代・家賃	1,800,000	1,873,667	東京事務所家賃	1,914,840
保険料	0	0		0
租税公課	403,958	60,309	前年は特許申請印紙代 37万円含む	10,000
諸会費	209,044	290,000	年会費	100,000
リース料	334,368	334,368	プリンターリース料	334,368
支払手数料	5,610,395	8,898,562	ロボットカード決済手数料818万円、振込手数料24万円、海外送金手数料27万円	4,257,120
雑費	97,215	49,370	ゴミ処理券、廃棄物処理	75,200
減価償却費	6,475	0		0
為替差損	2,242,382	0		4,500,000
雑損失	36,467	0		0
租税(消費税)	741,000	404,400		1,000,000
当期経常費用合計 B	439,573,740	582,082,167		564,826,990

当期経常増減額 A - B	(66,796,070)	319,069,531		19,140,784
---------------	--------------	-------------	--	------------

経常外収益

【経常外収益】	293,975			
固定資産売却益	293,975	239,219	ラオス車両運搬具(償却済)の売却益	

経常外費用

【経常外費用】	178,118			
固定資産売却除却損	178,118			
控除対象外消費税等				

税引前当期正味財産増減額	(66,680,213)	319,308,750		
法人税・住民税・事業税	70,000	70,000		
当期正味財産増減額	(66,750,213)	319,238,750		
前期繰越正味財産額	546,625,416	479,875,203		
次期繰越正味財産額	479,875,203	799,113,953		

令和2年度 貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位：円)

科目	金	額	
I. 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	491,744,472		
書籍	1,246,221		
前払費用	2,179,283		
立替金	73,242		
仮払金	1,208,310		
未収金	35,700,426		
流動資産合計		532,151,954	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
建物	190,462,221		
建物付属設備	29,323,298		
構築物	10,941,869		
車輛運搬具	9,597,552		
工具器具備品	30,725,462		
土地	49,652,707		
建設仮勘定	2,381,030		
有形固定資産計	323,084,139		
(2)無形固定資産			
ミャンマー土地賃借権	17,969,823		
無形固定資産計	17,969,823		
(3)投資その他の資産			
敷金	2,048,358		
保証金	100,050		
投資その他の資産計	2,148,408		
固定資産合計		343,202,370	
資産合計			875,354,324
II. 負債の部			
1 流動負債			
未払金	39,781,386		
前受金	34,020,147		
預り金	2,314,218		
仮受金	24,020		
未払法人税等	70,000		
未払消費税等	30,600		
流動負債合計	76,240,371	76,240,371	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			76,240,371
III. 正味財産の部			
前期繰越正味財産		479,875,203	
当期正味財産増減額		319,238,750	
正味財産合計			799,113,953
負債及び正味財産合計			875,354,324

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品は、個別法による原価法

原材料は最終仕入原価法を採用しています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

建物は定額法、建物付属設備、車両運搬具、什器備品は定率法を採用しています。

② 無形固定資産

定額法を採用しています。

(3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

令和2年度 財産目録

令和3年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
1. 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	491,744,472
手元現金	8,790,257
三菱UFJ銀行普通預金	53,721,999
三菱UFJ銀行普通預金	2,433,183
三菱UFJ銀行普通預金	0
三井住友銀行普通預金	87,811,002
朝日信用金庫普通預金	9,256
ゆうちょ銀行普通預金	2,823,938
ゆうちょ銀行当座預金	172,531,860
ゆうちょ銀行当座預金	7,148,580
ゆうちょ銀行当座預金	978
朝日信用金庫定期預金	10,000,000
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 No.1	13,973,701
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 No.2	7,590,027
Foreign Trade Bank 6ヶ月 定期預金 No.3	9,963,900
Foreign Trade Bank of Cambodia ドル預金	21,371,333
Canadia Bank/of Cambodia	1,107
ABA Bank Payroll Cambodia	15,121,401
ABA Bank Cambodia	6,840,594
ACLEDA Bank Cambodia	1,462,632
三菱UFJ銀行 ユーロ口座	7
三井住友銀行 ドル預金	528,465
BCEL \$ 預金	716,533
BCEL KIP 預金	74,771
BCEL KIP 寄付用預金	0
Myanma Foreign Trade Bank USD ミャンマー	0
Myanmar Economic/Bank	4,837,584
KANBAWZA BANK USD ミャンマー	30,019,180
Kasikorn Bank(THB) タイ	0
BCEL KIP 寄付用	342,090
WING Cambodia	30,849
ASIAWEILUY Cambodia	24,201
KANBAWZA BANK MMK	28,068
Foreign Trade Bank Cambodia	16,939
セントラル短資FX(株) 円預金	32,976,328
セントラル短資FX(株) ドル預金	0
Myanma Foreign Trade Bank JH	553,709
ミャンマー-国営銀行	0
棚卸資産	
書籍	1,246,221
前払費用	
海外家賃	2,179,283
立替金	
社会保険料立替金	73,242
仮払金	
海外事業仮払金等	1,208,310
未収金	
医療支援活動に係る費用弁償代等	35,700,426
流動資産合計	532,151,954
2. 固定資産	
(1) 有形固定資産	
建物	
ミャンマー-スタッフ宿舎	5,080,571
ミャンマー-スタッフ宿舎 追加工事	393,712
カンボジア病院建設	36,798,047
カンボジア小児科医療センター	69,783,286
カンボジア病院 外来待合室	1,752,254
カンボジア病院 スタッフハウス	33,599,291
カンボジア病院 スタッフハウス 会談/手摺工事	465,470
カンボジア病院 AAMC病院給食センター	30,769,617
カンボジア人 スタッフ新宿舎	9,448,837
カンボジア人 スタッフ新宿舎 1階追加工事	2,371,136

建物付属設備			
カボジア病院 変圧器等	2,534,359		
カボジア病院 陶器手洗器設置工事 分水工事	555,745		
カボジア病院 患者用導線屋根	372,753		
カボジア病院 変圧器(増設)	3,178,913		
カボジア病院 AAMC病院給食センター 厨房機器一式	19,873,572		
カボジア病院 電気ケーブル Phase1.2	1,300,549		
カボジア病院 電力制御システム Phase1.2ケーブル	284,990		
カボジア病院 発電機室	830,954		
カボジア病院 女子寮屋上 断熱材設置工事	295,588		
カボジア病院 宿舎No.2 排気ダクト設置工事	95,875		
構築分			
カボジア病院 舗装工事等	677,960		
カボジア病院 浄化槽埋設工事・掘削工事	1,601,511		
カボジア病院 外来待合室前 舗装工事	265,533		
カボジア病院 貯水タンク4台設置工事	535,224		
カボジア小児病棟前 コンクリート道路工事	262,340		
カボジア病院 太陽光発電システム装置 DREAM Train	884,010		
カボジア病院 スタッフハウス 給水タンク	331,795		
カボジア病院 発電機 Phase1.2 停電時使用	3,916,320		
カボジア病院 駐車場工事	241,365		
カボジア病院 貯水タンク5,000L	97,733		
カボジア病院 排水管の設置(病院からの排水)	254,200		
カボジア病院 排水管の設置(病院Phase1前)	270,482		
DREAM Train フェンス(図書館裏から事務所裏)	448,875		
DREAM Train フェンス(事務所裏から女子棟裏)	171,082		
DREAM Train フェンス(フットボール場)	449,100		
DREAM Train 貯水タンク 図書館設置	166,653		
DREAM Train フェンス(隣接した別の養育施設との間)	367,686		
車輛運搬具			
車両 11台	9,597,552		
工具器具備品			
医療器具等	30,725,462		
土地			
ミャンマー	406,029		
カボジア プノンペン	16,256,850		
カボジア病院用地	32,989,828		
建設仮勘定			
カボジア病院	2,381,030		
有形固定資産計	323,084,139		
(2) 無形固定資産			
借地権			
ミャンマー土地賃借権	17,969,823		
無形固定資産計	17,969,823		
(3) 投資その他の資産			
敷金			
東京事務所・職員宿舎敷金	268,000		
カボジア事務所	748,902		
カボジア病院 宿舎	676,080		
カボジア病院 宿舎	267,096		
ラオス事務所	88,280		
保証金 資機材購入保証金	100,050		
投資その他の資産計	2,148,408		
固定資産合計		343,202,370	
資産合計			875,354,324
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
給与・医療支援活動に係る費用等	39,781,386		
前受金			
国際長期看護研修参加費等	18,147,047		
カボジアプノンペン土地売却 手付金	15,873,100		
預り金			
海外渡航費・保険料等	2,314,218		
仮受金			
ミャンマーDTスタッフ 現地現金補填学	24,020		
未払法人税等			
2020年度法人税住民税事業税等	70,000		
2020年度未払消費税等	30,600		
流動負債合計		76,240,371	
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	
負債合計			76,240,371
正味財産			799,113,953

監事監査報告書

私は、特定非営利活動法人 ジャパンハートの2020年4月1日から2021年3月31日までの第13期事業年度の監査を実施しました。

事業報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録はいずれも適法かつ正確であることを認めます。

2021年5月/8日

特定非営利活動法人 ジャパンハート

監事 大橋秀夫 

I. 事業計画 / 海外

ミャンマー

1. 医療活動

1) ワツチェ慈善病院を拠点とした医療活動

- ・現地の情勢を考慮しながら、ミャンマー人医療スタッフのみでの手術を月1度の頻度で継続する。
- ・モバイルクリニック(遠隔地往診)をミャンマー各地で年5回を目標に行い、医療アクセスの向上を図る。

2) その他の医療活動

- ・ミャンマー国内情勢をみながら専門家の派遣および活動再開を検討する。
- ・日本人専門チームおよびミャンマー現地医師とのオンラインレクチャーおよびカンファレンスの実施する。
- ・口唇裂・口蓋裂手術技術指導用テキストを作成する。

3) 小児心臓病サポート活動

- ・ミャンマー国内情勢をみながら活動再開を検討する。

4) 透析サポート活動

- ・施設建設以外の可能性も探るべく、多角的な検討を実施する。

2. ミャンマー医療人育成事業

引き続き新倉会の協力により、奨学生9名(医学生4名・看護学生5名)に支援を行う。

3. 社会福祉関係

1) 養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)

- ・昨年度、新型コロナウイルスの影響により入所が叶わなかった約10名の新規児童の受入れを行なう。また、今後増加が予想される貧困家庭の児童の入所希望の聞き取りを一年を通じて継続する。なお、新学期開始後の児童の転入は原則として認められないため、緊急性の高い場合のみ施設受入を行う。
- ・昨年度より強化しているオンライン学習・イベントの、量・質の向上を図る。なお、新たに、キャリア教育・プログラミング教育・知育・韓国語学習イベントなど実施予定である。
- ・日本語専任の講師を雇用し、より体系的に学習ができ、かつ情勢に左右されない持続可能な学習環境を整える。
- ・情勢が安定次第、長期ボランティア・インターンを3名確保し、看護業務・体育指導・語学指導などをご担当いただく。

2) ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

- ・新型コロナウイルスが鎮静化し、正式な実施許可が出た段階で新規受講生を募集し、1年間の医療マッサージトレーニングプログラムおよび、Advanced Courseの実技指導を実施する。

3)サイクロン孤児支援活動

24名の子どもの状況に合わせた、学費および医療費の支援を実施する。

カンボジア

1. 医療活動

1)ジャパンハート子ども医療センター

新型コロナウイルスへの感染予防対策を徹底しながら、当院を拠点に医療活動を継続する。日本からの専門医チームの派遣は引き続き困難な状況が続くため、当院で活動する日本人医師・カンボジア人医師を中心とし、医療提供を行う。オンライン講義などを含め、レベルアップへの研修等も積極的に組み込んでいく。

2)提携病院での活動

新型コロナウイルス感染拡大の状況を注視、可能な限りチューンプレイ病院、ロカカオン病院など、病院周辺 3 州での診療や手術活動を継続しながら新たな提携先の病院の開拓も行い、活動を拡大していく。バティエ病院、チャムカルー病院等での看護師長期滞在、近隣小学校での健康診断活動の継続、訪問看護活動、病院近辺の保健センターでの母親学級を行っていく。

3)給食センター

喫食率の調査、栄養カウンセリング、アセスメントを通し、小児がん患者一人一人の成長や病状に合わせた食事を提供する。また、退院後も継続して患者が栄養を考慮した食事をとれるよう、入院中から栄養指導などのサポートを行う。医療センタースタッフへも、万全な体調で医療活動に臨めるよう安全で栄養バランスの取れた食事提供を続ける。

2. 医療学生 奨学生支援活動

新型コロナウイルス感染拡大の影響で入学試験等未定の状況であるが、開始され次第事業を進捗させる。医学生・医師に関しては、ジャパンハートカンボジアが注力している小児科、外科、小児外科、産婦人科について、専門コースへの進級を許可し、専門医を育成する。

3. 新しい広報活動の取り組み

1)カンボジア国内における認知度向上

引き続きジャパンハート子ども医療センターの認知度を高めることを通し、小児がんや先天性疾患の早期発見につながる啓発を行う。カンボジア国内で活動する NGO との連携を強化し、患者の紹介や情報交換からよりスムーズな医療活動を実現していく。保健省主催のワーキンググループに参加し、政府機関との連携も強化する。

2)ファンドレイジング

軌道に乗り始めたカンボジア国内での企業や個人への寄付支援、広報転換に積極的に取り組む。

ラオス

1. 医療活動

1)ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっている、現行 MOU の契約内容に残っている 2 回分の手術活動を実施。それに伴い、内科診療活動も 2 回行う予定である。現行の MOU 終了後、1 年間の MOU をリニューアルして締結(Phase2)。年間で 5 回の手術活動と 8 回の外来診療活動補助を行い、甲状腺外科技術・内科診療技術・術後看護技術の移転を完了させる。ただし、MOU の再締結には半年程の時間が必要となるため、21 年度には Phase2 の活動が実際に行われることはない可能性がある。

2)個人診療

2名の患者について、引き続きそれぞれのサポートを行う。大きな手術の予定は今のところ無し。

3)パークグム郡病院での手術室稼働プロジェクト

2021年度内にMOUを締結。22年度の開始に向けて、草の根の助成金を獲得できるように、申請を進める。

4)小児診療・手術プロジェクト

ビエンチャンにあるカウンターパートとなり得る病院と症例を再度精査し、プロジェクトの骨格を再構築する。

5)広報・ファンドレイジング活動

国内での広報活動にさらに力をいれ、寄付獲得に繋げる。まずは1,000ドルの寄付獲得(企業・助成金除く)を目標に広報を行う。

国際緊急救援(International Emergency Relief)

災害ボランティア登録制度の充実と事業拡大を目指し、以下4点の取り組みを重点的に行う。

1. 新型コロナウイルス感染症緊急救援の継続

主にクラスター医療機関/福祉施設への人的支援を継続する。また、派遣先で得た知見やノウハウを共有するため、特に特殊性の高い精神科病院や障害児福祉施設での対策をセミナー形式で発信予定。また自治体と連携し、軽・中等症患者の治療施設運営等を行っていく。

2. 災害ボランティア登録制度の拡大

今年度は6月-12月の年2回開催を行うことで、新規登録者および更新者の増加を目指す。なお、内1回は協定先の佐賀県にて実施するものとし、1回あたり30名の新規登録と30名の更新者を目標とする。

3. 国内外におけるカウンターパートづくり

昨年度の熊本県との協定のように、有事の際に支援をスムーズに行うための枠組みを、行政との連携で構築していくことを進める。具体的には、国内で新たに3自治体との協定締結、渡航解除を前提に海外でのカウンターパート構築を目標とする。

また一方で、有事に看護師を派遣してもらえる医療機関との提携や、ジャパンハートが対応することの難しい超急性期の救急医療を提供できる組織との連携強化を目指す。なお、東北地方の徳洲会3病院との連携のもと、有事にジャパンハートの要請により看護師が一定期間休業可能となる「災害時派遣スキーム」を構築・稼働させていく。

4. 人員増加と部署間連携

事業拡大を目指し、新たに調整員1名と看護師1名の採用を行うことで、有事に迅速かつ広範に支援対応可能な体制を構築する。

II. 事業計画/ 国内

SmileSmilePROJECT

ニーズの増加を踏まえ、活動拡大に向けた取り組みを行う

1. 協力企業との協働企画を実施

昨年より引き続き、多くの企業から事業の応援をいただいております。協働して企画を実施する予定である。COVID-19の状況により、招待企画については協力企業と実施の検討が必要となるが、昨年度の感染対策やイベント開催の経験を踏まえ、対象である免疫力の低下した子どもたちが安心安全に参加できるよ

うに臨機応変にニーズに対応していく。

2. 個別企画への対応

- ・個別企画は感染症の動向に配慮しながら、ニーズに合わせて実施する。
- ・ボランティア説明会を定期開催し、活動参加してもらえる登録サポーター100名を目指す。

3. 広報活動

- ・2020年度に改定予定であったパンフレットだが COVID-19 の影響と東京事務局所在地変更により延期となっており、今年度改定を行う。
- ・ポスター制作・配布を行い、小児がん拠点病院への活動認知と連携を強化する。
- ・カンボジアのジャパンハートこども医療センターでの小児がん治療について、引き続き広報活動を実施する。

Ⅲ. グローバル人材育成事業

国際看護師研修・助産師研修

1. 研修プログラムの見直し

新型コロナウイルスによる海外活動地の患者状況や人員変化などに伴い、研修内容を見直す必要がでてきている。研修生の人選や事前研修の内容などを現状に見合った内容を構築する。

2. 海外の研修体制の構築

海外現場とタイムリーに情報共有や意見交換する会議体を設置し、定期的に会議を行うことで、研修プログラムのブラッシュアップや研修生ケアにつなげたい。また海外研修中の研修生サポート強化のため現地に研修担当を設置する。

3. 研修生への丁寧な介入

限られた研修期間の中で個々がより成長し個々の目標を達成できるよう、オンラインを活用し、個別対応含め、研修生へ丁寧な関わりを行う。

2. アドバンスドナースの増加・育成

現場と連携し、アドバンスドナースのフォロー体制を強化し、その後スタッフになりうる人材を育成する。今年度は各国の医療活動の拡大、ミャンマー専門医療プロジェクトの増加など、即戦力が求められる場がさらに多くなる。また即戦力となるアドバンスドナースを増やすことで現場の医療の安全を担保するとともに、彼らが手本となり、後世の育成に積極的に携わる循環を作る。

3. 研修修了生との連携

研修を修了した看護師は、海外の医療現場に限らず、日本の医療現場、また教育現場において講義・講演など幅広い活動を行っている。そこで、研修修了生とさらに連携して団体主催の交流会や説明会で情報発信を行っていくことで、日本の看護業界への波及を期待したい。

地域医療支援(離島・僻地医療支援)

1. 各病院の希望派遣者数の充足

各病院が必要としている看護師派遣人数の充足を図るため、引き続き各病院の魅力を情報発信していく。またオンラインでの個別相談などを実施する。ジャパンハートの主催の説明会などで僻地・離島医療支援の説明の場を設け、各病院の看護部長に参加してもらうことで、部長が直接地域の魅力を発信し、参加者

と交流する場をつくる。

2. 新たな病院派遣先の選定

現在 15 病院との提携を行っているが、新たな参入先病院なども検討し、国内での活動拠点の拡大と、志す看護の幅を広げより多くの想いに寄り添える事業としていく。

3. 各病院の質の担保

社会貢献したい医療者が魅力的だと思えるような活動場所の提供に向けて、各病院と連携して質の担保を目指す。各病院に訪問し病院スタッフや実際の派遣スタッフとコミュニケーションをとり、良いところや改善点などを把握して、より良い環境作りができるよう取り組む。

4. 各病院との連携

部長会を開催しジャパンハートの取り組みを再認識してもらい、また各病院の看護師充足の為の工夫を各病院で共有する場を作る。各病院の PR のためのブログや Instagram の提供に協力してもらい各病院の魅力を発信していく。RIKAjob ホームページの充実を図り、各病院へリンクを共有する。

IV. 広報・ファンドレイジング事業

広報活動

1. 支援拡大と団体認知の向上

1) AC 支援キャンペーン

2021 年 7 月より、三期目となる AC 支援キャンペーンを開始し、引き続きテレビ CM、ラジオ CM、新聞広告、電車の窓上広告、駅貼りポスター、シネアド(映画館での CM 上映)を展開予定。問い合わせをくださった方への対応に加え適切な情報提供を行う体制を構築。また効果的な広報、イベント実施等を組み合わせていく。

2) ウェブサイトの運用と情報の充実化

既に公開中のウェブサイトについても、訪れる方に必要な情報が提供できるよう、充実化を常時図っていく。検索順位向上の為の取り組みも行う。

3) WEB 広告の活用

有償・無償含めた WEB 広告を利用した効果的な広報活動を引き続き強化。

4) メディアへの露出を強化

吉岡秀人ほか、国内外の活動地で活躍するスタッフのメディア露出を進め、人材の層の厚さを訴求することで安定した活動状況を認知していただく。

ファンドレイジング

1. マンスリーサポーターの増加

WEB 広告の活用やコミュニティ内のコンテンツ充実等により、継続寄付者の増加および退会者の減少を目指す。

2. 法人へのアプローチ

1) 昨年度に作成した、寄付金額によって企業広報の協力を行う「法人プラン」の展開およびフォローを行っていく。

2) SDGs カンファレンスを実施することで、SDGs への取り組みに関心の高い企業との新規協働を促進していく。

3. ふるさと納税の継続

返礼品等の検討により、昨年度と同水準の金額および件数獲得を目指す。

5. 遺贈・相続

遺贈特集等への積極的広告出稿を行うとともに、遺贈を受け付ける信託銀行等との関係性を強化する。

経営戦略室

・戦略

1. 海外事業の価値提供方法の策定

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、特に海外においては既存の医療提供が停滞。コロナ禍における医療提供及びコロナ明けの世界を見据えた戦略を策定予定。

2. 国内事業の拡大

20年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により海外事業が停滞した一方で、国内への国際緊急支援を拡充。本年度も国内事業の更なる拡大を目指す。

・財務

・昨年度と同等の収益の維持

昨年度と同程度の収益の確保を目指す。特に安定的な収益基盤の一つであるマンスリーサポーターの更なる拡大を目標とする。

・組織

1. 採用

事業拡大のリソースを拡充するため、新規人的リソースの獲得を目指す。新規の職員に加えて、プロボノ等外部のリソースの有効活用も視野に入れる。

2. 組織強化

団体のビジョン・ミッション・バリュー及び組織目標の共有を本年度も継続して行う。またアウトブランディングと並行してインナーブランディングの強化も目指す。

支援者サービス

1. 支援者さまとのコミュニケーションの強化

支援者さまに安心してご支援を継続頂けるよう、支援者さまとのコミュニケーションの強化を図る。テレビ放送の告知やダイレクトメール(DM)を用いた活動の発信のみならず、継続してご寄付を頂いている支援者さまへ新たな御礼の場をご用意し、ご案内する。

2. 日常業務のクオリティの向上

お問い合わせ対応、領収書発行、活動報告の発信、感謝状の贈呈などの日常業務における更なる質の向上を目指す。

第4号議案 2021年度 活動予算書 (案)

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額(税込)	前年度決算額(税込)
経常収益		
受取会費	17,610,000	20,544,003
受取寄附金	573,103,458	798,131,383
受取助成金等	49,000,000	52,045,760
事業収益	40,540,000	23,681,507
その他収益	0	6,749,045
当期経常収益合計 A	680,253,458	901,151,698
経常費用		
【事業費】	464,483,979	541,934,332
人件費	189,495,221	142,966,760
顧問・アドバイザー料	720,000	600,000
業務委託費	11,117,880	65,395,573
通信運搬費	3,533,880	4,956,577
医療器具・備品費	1,745,000	318,428
医療支援費	28,311,000	22,106,365
学業支援費	11,784,825	8,176,694
子ども支援費	17,560,500	14,744,991
医療者育成費	10,537,701	1,943,988
旅費交通費	28,681,820	30,828,285
水道光熱費	6,800,000	5,992,588
広告宣伝費	74,657,000	35,208,758
研修費	530,000	459,500
会議費	447,000	314,427
接待交際費	128,000	113,342
消耗品費	6,789,336	146,117,000
食材費	7,430,000	6,756,980
新聞図書費	55,700	30,113
印刷製本費	3,383,000	1,233,632
セミナー開催費	3,742,000	1,429,280
海外スタッフ開催費	1,380,000	64,800
工事・修繕費	2,187,485	1,185,586
賃借料	45,000	3,145
地代・家賃	9,158,500	10,486,259
車両費	4,580,320	1,923,825
保険料	1,841,070	1,383,069
諸謝金	693,000	663,165
諸会費	116,361	73,461
リース料	50,000	0
支払手数料	7,728,380	1,387,995
雑費	128,000	1,070,144
寄附金支出	0	0
租税公課	826,000	376,038
書籍販売原価	300,000	268,464
減価償却費	28,000,000	33,355,100
【管理費】	35,893,786	40,147,835
人件費	21,006,090	17,892,023
業務委託費	3,469,980	5,706,644
通信運搬費	832,272	1,021,709
水道光熱費	258,000	209,766
旅費交通費	112,000	22,258
研修費	0	0
会議費	0	18,167
接待交際費	10,000	1,944
消耗品費	1,370,000	2,451,610
新聞図書費	0	0
印刷製本費	360,000	913,038
工事・修繕費	600,000	0
賃借料	0	0
地代・家賃	4,196,200	1,873,667
保険料	0	0
租税公課	50,000	60,309
諸会費	290,000	290,000
リース料	306,528	334,368
支払手数料	1,709,716	8,898,562
雑費	70,000	49,370
減価償却費	0	0
為替差損	503,000	0
雑損失	0	0
租税(消費税)	750,000	404,400
当期経常支出合計 B	500,377,765	582,082,167
当期経常増減額 A-B	179,875,694	319,069,531

新役員候補者

(敬称略)

理事(5名)

理事 吉岡 春菜(よしおか はるな) (重任)

理事 神白 麻衣子(こうじろ まいこ) (重任)

理事 山田 敏夫 (やまだ としお) (重任)

理事 宅間 頼子 (たくま よりこ) (重任)

理事 西井 敏恭(にしい としやす) (新任)

監事(1名)

監事 大橋 秀夫 (おおはし ひでお) (重任)